

運動の楽しさや喜びにふれ、生涯にわたって運動に親しむ能力を育てる体育学習を目指して  
 ～「表現リズム遊び」「表現運動」指導の工夫・改善を通して～

発表者 (串間市立有明小学校 桑田 尚明)  
 司会・進行者 (串間市立福島小学校 田中 洋貴)  
 記録者 (都城市立丸野小学校 川野 泰寛)

発言者	内 容
恒久小 佐々木先生	表現運動のBGMを選曲するのは、日常ではなかなか忙しいため難しい。リストを作って配付されることは、大変助かるのではないかと。そこで、串間市の小体連では、実際にどのように選曲作業が行われたか教えてほしい。
発表者	選曲については、串間市の体育主任を中心に、ジャンルを分けて行った。例えば、フォークダンスでは、メジャーな曲を何曲か選んだ後、3曲に絞っていった。また、「冒険」というイメージでは、レンタルビデオ屋で映画のタイトルを見て、関係するものを借りたり、インターネットでキーワード検索を行ったりした。
発表者	意見が出ないので、補足説明をさせていただく。本年度、3年目の研究ということで、継続研究を行った。また、発表の中に、年間指導計画の見直しということがあったと思うが、串間市の体育の年間指導計画は、主要教科と形が違い、アバウトであるという実態があった。本年度は、表現運動を運動会前にするだけでなく、どこに位置付けるのかということを考えていただいている。12月中にまとめていきたい。また、小規模校が多いという現実があり、発表の場がないという問題もある。そこで、近隣の小規模校で合同発表をしたり、朝の時間に、発表集会を設定し、他学年へ発表を行ったりするように促している。
餌肥小 今村先生	日南市では、昨年度学体研で表現運動について特に、「かかわり」という部分で発表した。そこで、今年は「できる」がテーマになっていると思うが、表現運動の評価の在り方について教えてほしい。
発表者	例えば、組体操のような個人技であれば、上手な児童のところに集まって、グループでかかわることを評価する。また、単純に技が「できる」ことを評価する。フォークダンスであれば、子ども同士で楽しく踊ることが「できる」といった「興味・関心」を評価する。いろいろな評価の仕方を考えている。また、ストーリーがあるものについては、自分達でストーリーをつくるのが「できる」作成の部分の評価することになると思います。しかし、数値化が難しいため、これから密に話し合っていく部分であると思う。
村所小 小森先生	運動会の発表のために表現を行うという目的であるとよくない。しかし、表現の授業をして、これまで学習してきたことを、運動会で発表するという考え方であれば、よいのではないかと。
発表者	確かにそうだと思う。しかし、表現運動が運動会に向けて行うだけで終わってよいのかということが、ひっかかっている。意図的に指導者側に表現運動に対しての視点を交えてもらうようにするためにも、年計の見直しは必要ではないかと。
富吉小 福田先生	高学年になると、表現することが恥ずかしく思う児童が多くなって来る。串間市では、取組の前後で、児童の変容はあったのだろうか。
発表者	日南市の取組を参考にさせていただいた。グループで発表する前に、主運動につながる運動をウォーミングアップで行い、和やかな雰囲気の中で表現運動に取り組みせるようにした。最初はぎこちないかもしれないが、上手な子どもに引っ張られながら、徐々に恥ずかしさも消え、スムーズに運動を行うことができるようになった。学級経営としてもよい効果が見られたと思う。